



2018 年度事業計画書

2018 年 1 月

特定非営利活動法人 さくら並木ネットワーク

当団体は、2011 年末に東京都の花業界・関連団体の協力を得て設立。2012 年春から「東日本大震災の大津波の記憶を後世に伝承する「桜並木」を」という目標を掲げつつ被災三県(宮城・岩手・福島)沿岸地域で桜植樹事業を開始。その後被災地域の皆様の心情や状況、住環境の変化などに柔軟に対応しつつ、寄り添いの気持ちを持って活動することを心がけながら植樹事業を継続してきた結果、2017 年春植樹終了時点で被災三県沿岸地域で植樹した桜は 4600 本を超えた。

当団体発足から 2017 年度までの被災地域からの植樹要請のおおまかな変遷としては、地域で津波の犠牲となられた方達の「慰霊」のお気持ちを強く感じる植樹要請から、徐々に被災地域の皆様の住環境の変化(仮設やみなし仮設から高台(集団)移転地へ)が進んだことにより、移転地内での「まちづくり」や「コミュニティづくり」としての植樹要請。また震災からの復興にむけて歩みを進めるために、「地域の観光地化」を図りたいという植樹要請も年を経て多くなってきた。

しかしそんな住環境の変化が進んだ被災地域の住民お一人お一人の心情はいまだ様々であり、

- ご家族を津波で亡くされたことによる心の痛み
- 津波の記憶に心を苛まれている

住民も東日本大震災から 6 年を過ぎた今現在でも数多く見受けられる。当団体が今後さらに被災地域に貢献する植樹事業を展開していくためには、被災地域の住民の皆様の声を真摯に聞き、震災によって傷ついた心に寄り添う姿勢こそが求められると感じる。そのために 2018 年度は、2017 年 7 月に設立したさくら並木宮城拠点の被災地域のさらなる情報収集能力の強化とヒアリング力の向上を図っていきたい。

組織については、さくら並木宮城拠点での現地有給スタッフ増員を計画中。また現地スタッフやボランティアの桜植樹やメンテナンスの技術向上を図り、急速に高齢化・過疎化

が進行している被災地域に貢献できる現地体制を 2018 年度中に構築しておきたい。またスタッフの言葉や言動に心傷つく被災地住民が出ないように細心の注意をし、グリーンケア講座などにも積極的に参加し、被災地域の皆様から心から愛されるさくら並木宮城拠点を目指す。

財政体制については、当団体発足当初は個人寄付が多かったが、近年は企業の CSR 活動の一環としての寄付が多くなってきた。しかし全国的に進んでいる東日本大震災の風化により、徐々に寄付の減少が顕著になりつつある。2018 年度は植樹事業を中心とした被災地支援活動の内容充実と財政状況のバランスを常に保ち、過去に起こってしまった事象を検証し、未来に起こり得る状況を予測し備えておく組織体制を構築していきたい。

このように当団体は、

- 厳しい東北の気候の中で桜植樹事業を展開する困難さ
- 当団体が活動している被災地域の極端な過疎化・高齢化
- 全国的な東日本大震災の風化現象

など乗り越えなければならない壁がいくつもある。しかし当団体に寄せられる被災地域からの 2018 年春植樹要請は、現段階(2017 年 11 月現在)で打ち合わせができていて既に 10 か所 150 本を超えており、2018 年度のみならず今後も当団体が被災地域から期待され、そして果たさなければならない使命は数多く残されていると感じている。

当団体が植樹事業を展開している東北地方の壮大な自然のように「冬は厳しく春が訪れると心温かくなる」。2018 年度はそんな NPO 組織体制の充実を図りたい。

1、桜植樹事業

当団体の主要事業。

主に近年急増している①高台(集団)移転地植樹事業。②津波到達地域(もしくは福島原発事故エリア)及び現地再建者植樹事業。被災地域の幼稚園(保育園)や学校などの植樹となる③子ども体験植樹事業。被災地域の老人福祉施設などの④高齢者生きがい植樹事業。被災地域市民団体と当団体が共催(もしくは後援)して植樹する⑤地域イベント型植樹事業などに分けられる。被災地域(町内会・自治会・施設・地域団体など)と当団体の共催(もしくは後援)植樹会という形になるよう心がけ実施する。

被災三県(宮城・岩手・福島)沿岸部で春植樹(2~4月)と秋植樹(11月)期間に40回ほど実施している。

① 高台(集団)移転地植樹事業

近年被災地域の高台(集団)移転が進んだことにより要請が急増している植樹事業。移転地内のコミュニティができ始めたばかりのところやコミュニティ形成がままならないところも多いので、移転地住民の皆様が植樹会に気軽に明るく参加しやすい雰囲気づくりを心がけ、「みんなで植えた私達の桜」と愛着が持てるよう実施している。

実施場所と実施日：被災三県(宮城・岩手・福島)沿岸部の高台(集団)移転地で春植樹(2～4月)と秋植樹(11月)期間に、住民の皆様が参加しやすい土日に25回ほど開催。

② 津波到達地域(もしくは福島原発事故エリア)及び現地再建者植樹事業

津波が到達した地域(もしくは福島原発事故エリア)で開催される植樹事業。東日本大震災以降過疎化・高齢化が進行している地域がほとんどとなり、この植樹事業の植樹会も高台(集団)移転地植樹会と同じように、住民の皆様が明るく参加しやすい雰囲気づくりを心がけて実施する。

実施場所と実施日：被災三県(宮城・岩手・福島)沿岸部の津波到達地域(もしくは福島原発事故エリア)で春植樹(2～4月)と秋植樹(11月)期間に、住民の皆様が参加しやすい土日に10回ほど開催。

③ 子ども体験植樹事業

東日本大震災の大津波により多大な津波犠牲者が出ってしまった被災地域では、子どもは地域の大切な宝であり未来の象徴となっている。当団体ではそんな地域の宝である子ども達に桜植樹体験をさせ、「思い出づくり」や成長する桜とともに「地域を愛する心」を育んでほしいと願い、当団体発足当初から推進している植樹事業。実施場所と実施日：被災三県(宮城・岩手・福島)沿岸部で春植樹(2～4月)と秋植樹(11月)期間に、幼稚園(保育園)の児童が参加しやすい平日の午前。また学校は生徒が参加しやすい放課後に計5回ほど開催。

④ 高齢者生きがい植樹事業

東日本大震災以前から過疎化・高齢化傾向にあった被災三県(宮城・岩手・福島)

沿岸部に存在する老人福祉施設などのご高齢の入居者や利用者に「春に花咲く未来」に楽しみをもっていただきたいと当団体が推進している植樹事業。

実施場所と実施日：被災三県(宮城・岩手・福島)沿岸部の老人福祉施設などで春植樹(2～4月)と秋植樹(11月)期間に5回ほど開催。

⑤ 地域イベント型植樹事業

東日本大震災の被災地域では、住民自らが「地域の活性化」や「観光地化」を目指し市民団体や地域団体を起して頑張っている場合がある。当団体では、そういう住民の皆様「自分の地域は自らの力で何とかしたい」という強い意思を尊重し、そんな団体の皆様とは当団体は共催(もしくは後援)という形で植樹会を実施している。

2017年2月から福島原発事故の影響で住民が10分の1ほどに減少してしまった福島県南相馬市小高地区を盛り上げたいと日々奮闘している市民団体「おだか千本桜プロジェクト」の後援事業を開始。

実施場所と実施日：被災三県(宮城・岩手・福島)沿岸部の市民団体や地域団体の皆様とともに春植樹(2～4月)と秋植樹(11月)期間に5回ほど開催。

2、桜のメンテナンス事業

平均気温が低い東北地方の気候の中で桜が育っていくためには、様々なメンテナンス(草刈り、追肥、支柱替え等)をしなければ成長がかなり鈍化してしまう。また三陸沿岸部に植樹した桜は、鹿などの獣害に遭うことが多く継続的な経過観察が必要になる。年間を通じ、その時期に合った様々なメンテナンスを実施している。

3、花見会事業

2011年に発足した当団体が植樹した桜の一部は、年を経てかなり大きくなったものもあり、被災地域のあらたな喜びや癒しとなって機能し始めている。当団体はそんな被災地域の皆様と一緒に桜を植樹した支援者やボランティアの皆様との友情を仲介し、「植樹した桜を中心とした心温かい交流」が永続的なものになるよう、この花見会事業も今後はさらに推進していきたい。

実施場所と実施日：当団体が植樹事業に関わった地域で桜が開花する時期(地域によって開花する時期が異なるが4月中旬～下旬)に計10回ほど開催することが2018年度の目標。

4、被災地域イベント事業

当団体は東日本大震災で被災された地域の皆様に少しでも励まし、元気になっていただくために、不定期だが地域イベントを開催している。当団体の支援者であるオーガビッツ・プロジェクト様とベガルタ仙台様のご厚意により、2018年春には以前植樹した福島県新地町のサッカー少年団の子ども達を招き、第3回目の「オーガビッツさくら並木プロジェクト」マッチ観戦もほぼ決定している。

またさくら並木宮城拠点を体制強化し、全国のボランティア(演奏家、歌手、マッサージ師など何かの技能を持っている方達)の皆様と提携し、この被災地域イベント事業の充実も2018年度は図りたい。

実施場所と実施日：当団体が植樹事業に関わった地域で不定期でサッカー観戦や演奏会などを年間10回ほど開催しているが、もっと定期的に被災地域イベントを開催できるさくら並木宮城拠点体制を作ることが2018年度の目標。

5、チューリップの球根植栽会

毎年11月に岐阜種苗様からチューリップの球根(平均5000球)のご支援をいただいている当団体は、11月下旬～12月上旬に植樹に関わりのあった被災地域の皆様とともに、毎年5か所ほどでチューリップの球根植栽会を開催している。

6、東日本大震災の風化防止活動

当団体では東北の復興への道は長く険しいものと考えており、当団体の本部が都心部にある利点を生かし、全国各地で当団体代表理事の講演やラジオ出演などによって東日本大震災の風化防止に努めている。また当団体の支援者の皆様とともに、東日本大震災の風化防止活動としてイベントやコンサートなどの企画、開催をしている。

7、運営体制

東京本部	代表理事	細沼忠良	大口寄付担当、全国での東日本大震災風化防止の講演等
	代表理事	小池潔	大口寄付担当、全国での東日本大震災風化防止の講演等
	理事	渡邊純一	桜の仕入れ・銘板作成業者の選定
	理事 事務局長	小泉里江子	データ管理・企業や個人の寄付担当・HP管理・会報誌作成等本部業務担当
	監事	高橋洋一	監査・経理業務
	スタッフ	岡庭 華子	会報誌作成等本部業務 広報補佐 非常勤無休
	スタッフ	矢野 都紀子	会報誌作成等本部業務 広報補佐 非常勤無休
	スタッフ	高杉 揚子	会報誌作成等本部業務 広報補佐 非常勤無休

宮城拠点	理事・ 宮城拠点 責任者	吉武信幸	東北の被災地域事業統括、東北地方の寄付企業担当、東北地方での東日本大震災風化防止の講演、現地スタッフやボランティアのマネージメント等宮城拠点業務担当
	理事	渡邊良充	宮城拠点業務(岩手県で植樹要請があった場合岩手県植樹担当)
	スタッフ	佐藤尚志	植樹会ボランティアリーダー
	スタッフ	渡辺由香	植樹会ボランティアリーダー
	スタッフ	岡崎智也	植樹会ボランティアリーダー
	ボランティア	約 20 名	被災地域の植樹会・桜のメンテナンス・植樹会の準備(土壌改良や防鹿対策)作業ボランティア

桜植樹アドバイザー	菊池企業 (造園業者)	被災地域での桜植樹技術のアドバイス
苗木供給	酒井農園	当団体の植樹事業で使用する桜の苗木の提携業者

以上